

## 平成 28 年度第 2 回 大阪市イノベーション促進評議会 会議要旨

- 1 日時  
平成 29 年 3 月 21 日（火） 8:00～9:40
- 2 場所  
大阪イノベーションハブ（WEB 会議）
- 3 出席者  
松本委員長、吉原委員  
事務局（吉川理事、高田部長、柳内課長、小林課長代理）
- 4 議題
  - （1）平成 28 年度新規事業「O I H シードアクセラレーションプログラム」の活動状況について
  - （2）平成 28 年度の大阪イノベーションハブの活動状況と自己評価について
  - （3）平成 25 年度～平成 28 年度の関西のイノベーションエコシステムの状況と今後の O I H の活動の方向性について
- 5 会議概要
  - （1）平成 28 年度新規事業「O I H シードアクセラレーションプログラム」の活動状況について
    - ・国の交付金も活用して実施していること、また、市外のベンチャーが半数を占めていることは、このプログラムが広く知られているということであり、大変よくできたプログラムと考える。
    - ・プログラム自体はベンチャーを押し出そうとしているものであり、評価できる。
    - ・日本では大企業側がベンチャーを受け入れる準備がまだ十分整っているとは感じられず、その点は理解しておくべき。
    - ・本プログラムにおける大企業の満足度が、初回で 70% ということなので、問題視することはない。不満が 20% 超えてくると問題だが。しかし、大企業同士の横のつながりはまた別のプログラムを行うなどで実施し、このプログラムの趣旨がぶれないように実施して欲しい。
  - （2）平成 28 年度の大阪イノベーションハブの活動状況と自己評価について
    - ・情報発信については大変良く取り組んでいる。4 年間取り組んでこられて O I H が広く知られてきている。今後は他の同様な団体とは差別化した、価値のある情報発信を行っていく必要があり、ほかの地方公共団体がやっていないことを一歩、二歩、三歩、常に先に行くということを意識することが肝要。

- ・海外のネットワーク構築、O I Hを中心に活動するコミュニティ、大変クオリティの高いところが多く参加している。最近はA I など、新しい技術の研究会など、技術は毎日進化しているから、敏感になる必要がある。
- ・ベンチャーが関心の高いイベントを実施している点は評価できるが、残念なのは大学の技術シーズからのプロジェクト化もイベント等を通して出てくるべき。1つ出てくると、雪だるま式に出てくると思われる。
- ・東京でのブランディングも近年大変よくできている。これをばねに大阪市内でのネットワークを強靱なものとし、大阪・関西から海外へさらに発信していけるように取り組む必要がある。
- ・神戸はルワンダと提携したと聞いている。このように、新しいことをどんどん推進していくことが必要。
- ・国際会議のサブ会場の満足度が 60%であるのが気になる。展示のそばでピッチイベントを行うなど詰め過ぎたことが要因ということだが、改善の必要がある。

### (3) 平成 25 年度～平成 28 年度の関西のイノベーションエコシステムの状況と今後のO I Hの活動の方向性について

- ・資料 3 において、この 4 年間の活動をみると、大きな進展があったように思う。今後の在り方、例えば民間とのパートナーシップ、国からの支援、プログラムのビジネスモデルがどうあるべきかを真剣に考え、O I Hが進化していくことを期待している。
- ・シーズブッシュ型の開発は重要。O I Hがシーズ間のネットワーキングやシーズとニーズが出会う場所になればいい。
- ・大企業を常に巻き込み続けられるように、また、梅田に進出した大工大や阪大のオープンイノベーション研究センターなど、イノベーションを先駆的に実施しようとしている大学ともつながることができるように、そしてそれらつながりにより、事業の質や量も高めていくことが大切である。
- ・O I Hがめざす方向性を明確に、官と民の役割をはっきりさせて、発展に向けてがんばってほしい。O I Hの卒業生の体験談を小学生、中学生や高校生に対して発信していくのも官の役割。

## 6 会議資料

- 資料 1 平成 28 年度新規事業 O I Hシードアクセラレーションプログラムについて
- 資料 2 平成 2 8 年度事業にかかる目標設定とアウトカム（成果）について
- 資料 3 関西エコシステムの状況と今後のO I Hの役割